

第8回高安自然再生協議会のテーマと要約

2016年6月30日（木）5時30分から7時30分

場所：大阪経済法科大学八尾駅前キャンパス

参加者：太田、松本、寺西、宮崎、宮嶋、新福、大橋、田倉、小林、福田、水谷、坂上、小西、森田、横川、越智、町田、山本、加納、西辻、尹、深瀬、福田久美子

アドバイザー：松浦義彦、養父志乃夫

テーマ：高安地域の自然再生と空き家・休耕地の利用について

『空き家と空き地を活用することで高安が甦る』

・町田弘さんは、3年前から休耕地を借り自然栽培を実施し、循環型の生活を実践するために、一人で旧家をリホームして、藻谷氏がいう里山資本主義を実践チャレンジしている。土堀から土間まで自然素材で再生し、糞尿分離型トイレを設置して、エネルギーは高安山の森林自然再生で得たバイオマスエネルギーの薪を最大限に利用するというような、循環型の生活を実践している。つまるところ、新しいライフスタイルを実践して、確立しようとしている若者である。

・なぜ、こんなことしてるのか？

（その内容は別紙1を参照してください。）

・空き家を賃貸し、陶芸の工房を作る越智さんの事例。

・堅下ワインの紹介

堅下ワインは典型的な6次産業化を成功させている事例である。

（その内容は別紙2を参照してください。）

・高安地域において、河内木綿などの6次産業化を実現するには、かなり困難を伴う。

・仮に、河内木綿を一から作り販売したいのであれば、休耕地で和綿を栽培し、古民家などの空き家をリホームして利用すればよい。

・宅地を商業地にするには、土地の用途変更をする必要がある。

・結論として、市街化調整地域や、農業振興地域であっても、空き家を利用するのであれば、6次産業化しなくても、そこで店を出せる可能性はある。

・“町田氏”のエコツーリズムについての考え

高安エリアは、

- ① 自然栽培農作物の生産地
- ② 循環型社会の実践地
- ③ 持続可能性の追求地

であってほしい。つまり、新しいライフスタイルを実現できる地域である。

観光うんぬんよりも、先ず、勝手に地域人で盛り上がりたい！

“勝手に盛り上がり”を外部へ発信！ちょこっと古墳もからませて(笑)

それが…



そんな高安エリアに興味をもってくれたら、「セカンドハウス」構想もある。

今の生活をしながら、週末にちょっとだけ、高安の生活をしませんか？

空き家を利用して自分でリフォームする。

耕作放棄地で野菜作り、森林活動・環境保全活動する。

それをエリア全体で推進・サポートする。

個人や家族だけでなく、団体にも利用可能にする。

たとえばサークル活動で複数人で利用とか、週末利用で気に入ってくれたら、移住も検討してください。通勤可能エリアでかつ田舎ライフが楽しめる！気軽さが大事！

その取り組みで、興味のある人以外の人を呼び込むことが出来れば、観光として成り立つかも。もちろん、

- ・公衆トイレや案内所や体験コーナー
- ・カフェやレストランの飲食店
- ・野菜直売所や雑貨屋さん

なんか、エリア内にたくさんできたらいい。

自然栽培野菜でカフェする。

地域独自の取り組みが、結果として観光に結びついたという流れが自然。

外部から人が来ようが来まいが、観光されようがされまいが、取り組み自体は半永久的に実施されてほしい。それが…

